

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400499		
法人名	有限会社 夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・三ツ柳(第1)		
所在地	岐阜県羽島市正木町三ツ柳2-184		
自己評価作成日	令和7年10月9日	評価結果市町村受理日	令和8年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170400499-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170400499-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「安心感」の理念を基本とし、誰もが安心して暮らせたり前の生活が出来る介護を目指している。  
敷地内の畑で花や野菜作り、収穫した野菜は利用者様と一緒に料理し楽しんでいる。ドライブ兼、買物(スーパー)、喫茶店、夏祭りあたり前の生活を楽しまれている。  
又、社会資源にも参加、選挙にはご家族と会場へ投票に出かけている。その人らしさを大切にし育休、産休にも力を入れ共に助け合い働きやすい職場作りへと介護につなげている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は「事業を通じて明るく楽しい社会を想像し実現する」「認知症になってもみんなが安心して暮らせる社会に貢献する」を事業目的としている。職員は、法人理念についても正しく理解し、指針に沿って利用者サービスに取り組んでいる。利用者と職員の笑い声と笑顔が見え、和気あいの雰囲気がある。晴れた日はドライブや散歩に出かけたり、畑で野菜を作るなど、利用者の経験を活かしながら、それぞれが思いのまま過ごせるよう支援している。また、毎月、担当職員が利用者の日々の様子を書いて家族に送付するなど、より良い信頼関係構築に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている(参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(第1)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念、ホームの理念を毎日朝礼、夕礼をスタッフ一同音読し共に共有し実践に取り組んでいる。	法人理念を目につきやすい場所に掲示し、利用者、家族、職員すべてが日々、確認している。朝、夕の申し送りで理念を唱和し、実践につなげている。年2回、キャリアパスの一環で理念の確認テストを行い、浸透を図り実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍が薄れてきてはいるが、日常的交流はまだ進んでいない。	コロナ禍以前のように、地域と交流する事は難しいが、散歩時には、住民と挨拶を交わし、近隣の店で買い物をしたり、利用者と喫茶店に出かけている。祭り際には、子ども神輿が訪れており、利用者で交流できている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍も薄れ開催する事が出来るようになり、意見交換や助言など頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議の開催案内を家族に送付し、議事録も送付している。運営状況や行事報告、利用者の様子等、今後の計画などを含めて参加者と意見交換を行い、助言などをサービスに活かしている。	運営推進会議は、市町村職員や地域住民の代表等に提供しているサービスを明らかにし、サービスの質の確保を図ることを目的としている。会議への参加を依頼し、助言や提案を受け、更なる利用者サービスの改善に繋がりたい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護認定調査の面談の日時の対応、生活保護受給者の方との伝達や介護相談の訪問、防災訓練に取り組んでいる。	地域高齢者の現状についての情報、介護相談員の受け入れ等について協力を得ている。日常的に行政と意見交換を行い、生活保護受給者支援の手続きや防災等について、連携を図っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加、ミーティングや委員会等で課題を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を定期的開催している。身体拘束について学び、課題や適切な対応方法について話し合っている。現在、安全ベルトを使用する場合もあるが、行事の際の離床時のみとしている。安全面を考慮し、玄関は施錠している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、ミーティングや委員会等で話し合い、意見を交換し虐待防止に努めている。	虐待防止委員会を開催し、法人全体の取り組みやマスコミ報道などの事例も参考に学んでいる。職員は、セルフチェックリストにて、自身のケアを振り返り、グループワークで話し合いながら、虐待防止に取り組んでいる。	

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の方が成年後見制度を活用している。必要時には、電話で伝達報告の対応支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結等、不安や疑問点を傾聴し理解納得に話し合い努めている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議に御家族様、利用者様、法人代表、ケアマネージャー、担当の職員、管理者と意見交換、状況報告又は、当日参加出来ない御家族様は、ズームで情報共有している。	毎月、担当者が利用者の日常生活や健康状態を報告書としてまとめ、家族に送付している。家族の訪問時には、管理者やケアマネージャーが時間をかけて対応している。家族アンケートで意見を聞き、サービス向上につなげている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティング、朝礼、夕礼の申し送り、主任会議、委員会、意見箱も設置し職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	定例会議で理念について学び、年2回、確認テストを実施している。職員は、理念を学んだ上で、意見や要望を自分の言葉で伝えることが出来ている。管理者は、職員の意見を尊重し、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人員不足になった時の対応策や、有休100%を目指す取り組み、産休や育休にも力を入れており、誕生日には花束プレゼント、食事会と職場環境に努めている。	法人として労務担当者の配置があり、適切な就業環境を整備している。法人は、岐阜県ワーク・ライフ・バランス推進企業に登録しており、仕事と家庭の両立支援を図り、職員・パートの定期的な健康診断なども行っている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者自身も研修に参加、キャリアパス研修、委員会、テスト、面談、他者評価、ICF、ICT、センター方式、ミーティング時の木鶏会(本人の良い所を褒め合う)発表にも力を入れている。	職員は各委員会の担当を担いながら、専門職としても様々な研修を受講し学んでいる。代表も研修に参加し、職員に指導や助言を行っている。また、外部研修の受講機会を多く設け、職員を育てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は意欲的に勉強会や研修に参加、キャリアパス、委員会、木鶏会、ICT、ICF、センター方式の取り組みに力を入れサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の出来る事、出来ない事を見極め、家事活動などを一緒にを行い日々の生活の中で自信につながるケアを目指している。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から思いや意向の把握に努めている。本人様から行きたい所や欲しい物の希望を伝えて頂ける方もあり、可能な限り支援させて頂いている。	職員は、利用者一人ひとりに寄り添い、話しやすい雰囲気作りを心がけている。新たに把握した思いや願いを職員間で共有し、可能な限り叶えられるよう支援に取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を設け、毎月のミーティングにおいてケースカンファレンスにて評価している。面会時に御家族様から意見、意向を聞き必要に応じて医療職からの言葉を介護計画に落とし込んでいる。	介護計画作成会議に家族も参加し、計画の進捗状況、課題点について話し合っている。担当職員の意見や医師の助言などを総合的に評価しながら計画を作成している。家族が遠方で参加できない場合は、オンラインでの話し合いも取り入れている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを活用し、日々の状態を職員間で情報共有し、ミーティングで話し合い介護計画の見直しを行っている。	タブレット端末を活用して利用者の状態を記録、情報を共有している。利用者の状態変化があった際には、職員は、日々の介護記録や申し送りノート、口頭でも確認し、職員全体で把握するよう努め、話し合いながら見直しにつなげている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様の希望に応じて一緒に買い物へ行きお菓子等を購入したり、希望メニューを取り入れたり出来る事は柔軟に対応している。また、家族様の状況により個別支援を利用し、個々のニーズに対応できるようにしている。	介護用品の補充や受診同行等で、家族の対応が難しい場合は家族に代わって支援している。また、必要な福祉用具の選択についての相談など、利用者や家族の様々なニーズに対応している。個別対応のリハビリ体操では、臨機応変に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお菓子屋へ買い物へ行き、お店の方とのふれ合いを大切にしている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医だけではなく、御本人様、御家族様の希望される病院や入所前からのかかりつけ医による訪問診療、訪問歯科が受けられるようにしている。	契約時に、かかりつけ医についての方針を家族と利用者に説明している。利用者は従前のかかりつけ医の訪問診療や協力医の往診を受けている。訪問看護ステーションとの契約もある。専門医への受診は家族の付き添いを基本としているが、家族の要望には柔軟に対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居中のサマリーを渡し、細やかな情報提供をする事で安心して治療を受けられるようにしている。また、担当看護師からの情報を収集しスムーズに退院できるようにしている。	入退院時は、管理者やケアマネジャーが対応し、介護サマリーを提供している。家族や病院のソーシャルワーカーと連携し、早期退院に向けて支援しながら、利用者の受け入れ態勢を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や担当者会議時に終末期の希望やエンディングノートに取り組んでいる。重度化した場合は、再度方向性を話し合っている。	契約時に、重度化や終末期に向けた支援についての指針を説明し、家族と利用者の同意を得ている。利用者の状態変化時は、早い段階で関係者が話し合い、その都度、家族の希望を再確認した上で、看取り支援を行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、急変や事故発生時に対応できるようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練(水害・火災・地震)の実施。2か月毎に、防災委員会開催し、災害時の避難方法・防災食の調理方法について実施している。	年2回各種災害を想定した避難訓練を実施している。定期的に防災委員会を開催し、備蓄品の点検、感染症対策についても話し合っている。災害時における緊急避難場所として、近隣アパートの3階を借りている。	地域の防災訓練に事業所として参加し、事業所の避難訓練には、予定日を近隣に知らせ、参加を呼びかけたい。運営推進会議で話し合いながら、自治会や地域住民との協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	パット交換やトイレ使用時は、ドアを閉め、タオル等を掛けて、プライバシー尊重を心がけている。プラカードを利用している。	接遇研修を定期的に行っている。利用者への言葉遣いに注意し、入浴や排泄支援等の個別支援では、プライバシーや羞恥心に配慮するよう心がけている。職員は、常に利用者の人格を尊重し、誇りを損ねない対応に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や要望に添えるように傾聴し、自己決定をしていただけるように支援をしている。センター方式とICFを取り入れ担当が中心に行っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに沿った支援に努めている。又、利用者様同士での交流の機会を作っている。当日行えない事は、後日計画をして行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベントや誕生日時は、その人が食べたいものを聞き、その人に合った形態で対応している。収穫した野菜をみそ汁などにしている。	副菜は、法人の配食事業部から届き、汁物やご飯は事業所で準備している。利用者の状態に併せた形態で提供しており、完食に繋がっている。イベントや誕生会などは、利用者希望を聞き、一緒に買い物にも出かけている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養食を摂取している利用者様もいる。水分量の少ない方は、声掛けをして1日の水分量を確保できるように支援している。ペースト状の利用者様もいるため、水分にトロミを入れて誤嚥にならないように努めている。日々の法人内の配食事業部が栄養を考慮した食事作りをしてきている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前に発声練習をし、毎食後には利用者様の力に応じた歯磨きや口腔ケアをしている。訪問歯科の指導のもと行っている。	食後の口腔ケアが習慣化できており、自分でできる人は見守りで支援し、補助が必要な場合は職員が介助している。義歯の管理は職員が行っている。訪問歯科の指導の下、治療が必要な場合は家族と相談している。	

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛け、確認、誘導を行う。トイレ、Pトイレ、パット交換等、その人に合った自立への支援に努めている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を楽しんで頂けるよう工夫を行う。体調や希望により、個々に応じた支援をしている。(2~3名、リフト浴使用)入浴は、夏3回、冬2回あり。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	TVやラジオ、携帯での動画等、個々で好きなことをされ、休まれている。居室内の明るさや室温の調節も行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、いつでも確認ができるよう、個人ファイルにて管理し、変化がある場合、主治医の指示を仰ぐよう努めている。	服薬支援は複数の職員で確認し、対応マニュアルに沿って適切に行い、誤薬等を防止している。薬の変更時には、全職員に医師や薬剤師の指示を説明している。利用者の状態変化があれば、直ぐに医師に報告するよう徹底している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや工作、スポーツ観戦、外出、野菜作り、喫煙等、個々の役割や楽しみに行っていることを、尊重し支援している。	職員は、利用者の好きな事や希望を把握している。野菜作り、掃除、洗濯たたみなど、役割を担ってもらい、やりがいにつなげている。スポーツ観戦を楽しむ人、干し柿などのおやつ作りが得意な人、好きな事が継続できるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お菓子を買いに近所まで散歩したり、個々の希望にてスーパーや服屋、新しい橋を見に行ったりと、戸外に出かける支援に努めている。	天候や利用者の健康状態を見ながら、できる限り外出の機会を設け、気分転換できるよう支援している。近隣の店での買い物、ドライブ、散歩、外食を楽しみ、家族と墓参りや家の行事等で外出する利用者も多い。	

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様は金銭管理している方はおりません。要望があれば代行で実施している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的に手紙を書いたり電話できるように、支援している。携帯電話(3名)家族様と連絡されている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	案内掲示物は少なめにしている。絵を飾るなど安心できる共有空間づくりを実践している。	共用空間は広く、明るく清潔である。ゆったりとしたリビングで気の合う利用者同士が集まり、一緒に過ごす事が多い。季節の花を生け、壁には、職員と利用者が共同で作った作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士でゲームをしたり、歌を唄ったりして楽しく過ごして頂けるよう席の配置に気を配り、ソファも置いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビが好きな人は、居室に置いてあったり、家具、加湿器など、気持ちよく過ごせるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の残存機能を活かし自立した生活が送れるように工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400499		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・三ッ柳 (第2)		
所在地	岐阜県羽島市正木町三ッ柳2丁野184		
自己評価作成日	令和7年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「人間としての基本・介護の基本・笑顔の基本」を今期の事業所テーマに取り組み、年長者としての敬いの心で接し、話声 笑い声の中で信頼関係を築き笑顔の源に活気のある共同生活に取り組んでいます。会社全体としても昨年センター方式とICFに取り組み、その共有のためのICT活用も行っている。ご利用者だけではなく、ご家族の安心につなげるためです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(第2)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・夕礼時にて夢家族理念(フィロソフィ)を唱和し共有しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	頻繁ではありませんが、地域の子供神輿など参加しています。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災・身体拘束・看取り状況報告やコロナインフルなどの情報も家族様・行政と共に共有しています。ご家族の参加は定期的になってきた。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者の在居確認や入院報告・事故報告等速やかに連絡報告に取り組んでいます。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室の施錠や、4点ベット柵などはありませんが過去に離接利用者様がみえましたので職員出入口のみ施錠しています。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	夢家族・接遇委員会主体にて勉強会 講習会にて職員伝達および注意徹底防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身よりのない利用者様・家族と疎遠の利用者様は市役所と相談の上、民間・公的含め後見制度活用にて利用者様をサポートしています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	随時口頭説明や電話連絡にて十分な説明を実施しています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に御家族様アンケートを実施し、担当者会議等で御家族様から直接意見を頂き反映させています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティング、朝礼、夕礼の申し送り、主任会議、委員会、意見箱も設置し職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	人員不足になった時の対応策や、有休100%を目指す取り組み、産休や育休にも力を入れており、誕生日には花束プレゼント、食事会と職場環境に努めている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各委員会の開催や資格取得を会社負担とし推奨しています。社内キャリアパスの実施・テスト・他者評価・自己評価にてレベル把握に勤めています。岐阜県認知症リーダー研修にも参加中です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	羽島市内や岐阜市など認知症に関する行事等参加するよう呼びかけ、少しずつ参加している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様の出来る事、出来ないことを見極め、家事活動などを一緒に行い日々の生活の中で自信につながるケアを目指します。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から思いや意向の把握に努めています。御本人様から行きたい所や欲し物の希望を伝えて頂ける方もあり、可能な限り支援させていただいています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制を設け、毎月のミーティングにおいてケースカンファレンスを行い評価しています。面会時に御家族様から意見、意向を聞き必要に応じて医療職からの言葉を介護計画に落とし込んでいます。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノートを活用し、日々の状態を職員間で情報共有し、ミーティングで話し合い介護計画の見直しを行っています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様の希望に応じて一緒に買い物へ行きお菓子などを購入したり、希望メニューを取り入れたり出来ることは柔軟に対応しています。また、御家族様の状況により個別支援を利用し、個々のニーズに対応出来るようにしています。		

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のお菓子屋へ買い物へ行き、お店の方との顔なじみの関係を大切にしています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医だけではなく、御本人様、御家族様の希望される病院や入所前からのかかりつけ医による訪問診療、訪問歯科が受けられるようにしています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居中の情報提供書を渡し、細かな情報提供をすることで安心して治療を受けられるようにしています。また、担当看護師からの情報を収集しスムーズに退院できるようにしています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や担当者会議時に終末期の希望やエンディングノートに取り組んでいます。重度化した場合は、再度方向性を話し合っています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、急変時や事故発生時に対応できるようにしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練・年1回の水防法避難訓練、地震避難訓練など 防災委員会主導のもと実施や防災食作りなども実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員がセンター方式をもとに、居室の充実・外出の充実を図っています。目上としての敬う言葉かけに注意・徹底にこころがけています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がセンター方式をもとに常に声掛けにて意思決定を尊重し本人の希望など、安全面・体力面など考慮して実践しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに沿った支援に努めている。又、利用者様同士での交流の機会を作っている。当日行えない事は、後日計画をして行っている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回程度食事レクリエーションなどホットプレートにて料理・おやつ作りを実施 毎日の食事片付けなども数名の女性利用者様が実践しています。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医・訪問看護の指示を仰ぎながら実践し、水分摂取の苦手な利用者様にはゼリー状にして工夫提供しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医の指示・助言を受け毎日うがい・歯磨き実践		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間でもトイレ誘導・自室ポータブルにて排泄を行い残存機能を活かした排泄に取り組んでいます。また日中は間隔を職員把握にて声掛け対応しています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現在は曜日・時間を決めて男女別々(同性介助)にて実施。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に自室で休めるよう支援していますし、日中は活発に過ごし夜間は安眠出来るよう心がけています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と連携して、機能・症状・変化を確認し訪問看護との助言・アドバイスにて支援しています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各職員がセンター方式をもとに、個別にて支援しています。食器洗い、食事作り、外出支援等。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様支援にて積極的に外出を促すと共に、日常的には、陽気のいい日は散歩や外気浴を行っています。		

岐阜県 グループホーム夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、御利用者様は金銭管理してみえる方はみえません。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的に御家族様に電話、手紙を送ってもらい協力してもらっています。書字が難しい方は動画に撮りメールで送付しています。また、御利用者様に年賀状を書いてもらっています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	案内掲示物は少なめにし、フロアに絵を飾るなど安心できる共有空間作りを実践しています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の位置やソファの位置など常に職員で話し合い工夫に努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族様と常に連携し衣類なども含め、なじみの物や写真を配置しています。御利用者様の好みの家具をそろえて頂き安心出来る居室作りに努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の生活歴や職歴を考慮し、介護計画に取り入れながら自立と尊厳を実施しています。		